

はねっと 3

仙台市民活動サポートセンター通信 ぱれっと

“ぱれっと”には、仙台市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。



仙台をワクワクさせる人物をご紹介します

震災と“よそ者”をつなぐ 架け橋になりたい

Project San-Eleven 代表

みねむら はるか

峯村 遥香さん(22)

東北大学3年生の峯村遥香さんは、東日本大震災の体験談を投稿・閲覧できるWebサイト「Project San-Eleven」を仲間と運営しています。特に投稿を呼びかけているのは、被害が少なかったなどの理由から体験を語ってこなかった人や、被災地以外の場所にいた世界中の人です。峯村さんは「どんな場所にも、あの日の体験談があります。自分の体験を語ることは、誰かの共感と呼び、自分事として心を寄せることにもつながる。震災を語るために“資格”は要らない」と話します。同時に、「関心を持ってもらうことで、実際に訪れるきっかけにしたい」と、仲間と旅行し好きになった女川町の魅力を記事にしてサイト内で発信しています。

神奈川県出身の峯村さん。大学進学を機に「東北に来たからには震災についても学ぼう」と、復興ボランティアや、震災学の授業に参加。「震災を“よそ者”の視点でしか見てこなかった」と痛感するなか、自分と同じように震災に関心をもつ留学生と出会いました。「自ら震災に触れることでしか得られない気づきの機会をつくれたら」と、留学生らと被災地をめぐるツアーを企画。コロナ禍で中止になるも、「このまま終わらせたくない」とつぶやいた峯村さんのSNSに、留学生をはじめ、震災当時何かしたくてもできなかった人が「自分もなにかしたい」と集まりました。仲間とつくり上げたサイトは、どんな人でも震災について語り、触れられる場になっています。

「最初から行動を起こそうとした訳ではなく、同じモヤモヤを抱えた仲間が背中を押してくれた」と語る峯村さん。今後も発信を通じて、震災から遠く離れた人の心に関心の種をまき続けます。



Project San-Eleven

被災地での体験談はもちろん、語られることのなかった震災の体験談と、被災地の今を伝えるWebサイト。記事の一部は日本語のほか、英語・仏語などでも読むことができます。▶





市民活動突撃レポート！

ちょっとお茶っこサロン 庄子千枝子さん 人と人のつながりを力に

若林区荒浜地区は、東日本大震災の津波被害により災害危険区域に指定され、住宅再建ができない地域となりました。同区なないろの里(旧・荒井西)は、集団移転先の一つとして、防災移転団地や転居者の戸建て住宅、災害公営住宅が整備された地域です。

なないろの里2丁目にある集会所では、毎月第三木曜日に「ちょっとお茶っこサロン」が開かれています。サロンを切り盛りするのは、荒浜から移転してきた庄子千枝子さんと様々な地域から集まるボランティアの人たちです。毎回30人前後が参加し、おしゃべりや出し物を楽しんでいます。庄子さんは、「同郷の人、移転先で出会った人、県外の人、誰でも参加してほしい」と話します。鶴ヶ谷からの参加者は「荒浜の人間ではないが、また来てくださいと言われて嬉しかった」と話します。時折顔を見せる福祉や行政機関の職員も「混ぜてもらえて嬉しい」と言います。



▲新型コロナウイルス感染予防対策をしながら実施中



▲マジックを披露するボランティアさんに拍手喝采

サロンは、震災後に庄子さんが夫婦で身を寄せた、南小泉のみなし仮設の自宅から始まりました。住んでいる地域に関わらず「誰でも来ていい場所」を掲げたきっかけは、当時、庄子さんが暮らすみなし仮設の住民たちと開くサロンに、集団移転によって離ればなれになった同郷の友人を招くことが許されなかったこと。コミュニティの枠を取り払った場をつくらうと、夫の庄子正さんと自宅でお茶会を開くようになりました。2015年、なないろの里に自宅を再建した後も、2018年に正さんが他界した後もみんなで継続してきました。

「続けてこれたのは、皆さんのお陰」と話す庄子さんの周りには、いつも手伝いを買って出る仲間たちがいます。人と人のつながりが「みんなの憩いの場」を続ける力になっています。

ちょっとお茶っこサロン TEL 090-2996-8789(庄子)



サポセン蔵書から活動に役立つ書籍をご紹介します

災害から命を守る「逃げ地図」づくり

「逃げ地図」とは、災害時に高齢者が避難場所まで歩く経路を3分毎に色分けしてつくる手書きの地図です。浸水時に危険な橋、地震で倒壊の恐れがある老朽化した塀といった避難リスクを地域住民が考えたり、意見交換したりすることを目的としています。生きた地図にするために、世代間や地域間の交流を促進させ、ワークショップを開催するなど継続的な活動にすることが重要だと本書では伝えています。

編著:逃げ地図づくりプロジェクトチーム 発行:株式会社ぎょうせい



つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。
「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。お気軽にご相談ください。

今月の休館日 3月10日(水)、24日(水)

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00
日曜日・祝日 9:00-18:00

休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日) 年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

[ホームページ] <https://sapo-sen.jp>

[サポセンブログ@仙台] <https://blog.canpan.info/fukkou/>

[ツイッター] @SCSC4CA

「ばれっと」バックナンバーは
ホームページからダウンロードできます。



「ばれっと」は、市民ライターと協働で制作しています。
ほぼ毎日更新している「サポセンブログ@仙台」で、取材の様子やこぼれ話を配信しています。

編集・発行 仙台市市民活動サポートセンター
(指定管理者: 特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンター)

発行日 2021年3月1日

デザイン PEACE Inc.

「ばれっと」紙面についてのお知らせ

新型コロナウイルスの影響により、社会情勢の変化が著しい中、市民活動の現場で起こっている状況に柔軟に対応するため、2020年7月号より紙面構成を変更しています。引き続きご愛読よろしくお祈りします。